

第26回 激動の5月を振り返る（5月31日曜日）

おはようございます。
長崎大学人、河野茂です。

本日は、2020年5月31日、
休日のメール発信をお許してください。

本日、ようやくクルーズ船、コスタ・アトランチカが、長崎市を出港し、
フィリピンへむかいました。長崎大学病院の皆様、熱帯医学研究所の皆様、
その他の関係者の皆様、心より御礼申し上げます。本当に、ご苦勞様でした。

<https://www.nagasaki-np.co.jp/feature/n-covid/>

現場の皆さんが頑張っていることの報告を聞きながら、私も長崎大学を代表して、
長崎県、長崎市、コスタ側と毎週様々な話し合いを行ってきました。医学的な視点、
政治的な視点、経済的な視点などが複雑に絡み合う、私自身も学長になって初めて
経験する極めてストレスフルな交渉でした。

乗組員の人命を守り、長崎市民の健康を守ることを第一に話し合いをすすめました、
何とか乗り切れた感があります。現場の皆さんと共に、「プラネタリーヘルス」
という言葉の一部を実践したような気持ちになりました。ありがとうございました。

今年の年頭に、私は「プラネタリーヘルスに貢献する長崎大学」を宣言しました。
当初、私自身も「プラネタリーヘルス」という言葉は、抽象的かつ観念的であり、
どういう方向に進むかわかりませんでした。奇しくも、新型コロナウイルスによる
地球規模のパンデミックにより、「プラネタリーヘルスに貢献する長崎大学」の姿が、
徐々に鮮明になりつつあることは、皮肉というか、偶然というか、あるいは運命の
めぐりあわせというか…、そんなことを考えながら激動の5月を振り返りながら、
この文章を書いています。

新型コロナ、クルーズ船以外にも大学では様々な動きがありました。

新聞各紙で、長崎大学情報データ科学部が、大村市へ移転が決定したかのような記事
がありました。

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/610245/>

現状を正直に申しますと、まだ正式な話し合いは始まっておりません。
今後どのような展開になるか予想が付きませんが、我々としては、新しい学部ですので、特に高校生や保護者の視点に立ち、現役学生の学ぶ環境と教職員の研究教育環境を考慮しながら、「選ばれる学部づくり」を続けるしかありません。

その延長上に、移転という選択肢も排除しないという柔軟な姿勢で臨んでおります。
今回は、新聞社の勇み足に感じるのですが、この問題は全学部に関わることで、できるだけ連絡調整会議などで、情報を提供していきたいと思っております。

他にも、生活困窮学生に対する西遊基金の活用を始めて、皆様のご協力により寄付金も目標の6割程度となりました。あと、もう少しです、ご協力よろしくお願ひします。

<https://www.nukikin.jimu.nagasaki-u.ac.jp/donation/donation.php>

困窮する学生からは、
「何とか乗り切れそうです」
「ありがとうございます」
の感謝の言葉が届いています。

支援の輪は広がり、高校生らから食料の寄付があり、大変うれしく思っております。
<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/info/news/news3107.html>

授業では、オンライン授業が定着してきました。教職員の皆さんには、大変な労力がかかっていると思います。しかし、学生側も含め様々な問題はあつものの、With コロナの時代、遠隔による教育および学習は避けて通れないと思います。6月は、オンライン授業について、発信したいと思ひます。

緊急事態宣言が解除されて、やや気持ちが緩むのはやむを得ないと思ひますが、第2波、第3波は、確実に来るのではないかと私は思ひます。

緊張感を維持しながら、大学運営に皆様と共にまい進したいと思ひます。